

港北の消防

第62号

令和2年4月1日 編集

横浜市港北消防団

(港北消防署内)

わが町下田町の防災訓練

下田町自治会 会長 高橋 定雄



下田町の防災訓練は、「自分の命は自分で守る」を基本に、「自助」「共助」に対する心構えと大切な「尊い命」「財産」を守り、隣近所との「絆」を強くするために何を為すべきか、相互の連帯感を意識づけるために実施されている。防災は、訓練により会得するもので、訓練が訓練で終わるのではなく実践で活用されなくてはならない。防災拠点訓練は、二日間に渡り実施しており、夜間訓練は、恒例となつて七年になる。

訓練二日目 夜間訓練では、避難者の中からボランティアの協力を得て備蓄倉庫の点検と発電機・投光器など器具の搬出を行う。建物の安全が確認されると、体育館内に「シート」を敷設する。防災訓練は、災害時、一人一人が何をなすべきかを体験する事であつて、災害が発生したら即対応できる実践訓練でなくてはならない。さらにペットとテント内での共同生活体験を実施している。

訓練二日目 小学校との連携訓練では、低学年生は「起震車」「スモークマシン」の体験、高学年生は消火器による消火訓練と三角布による応急救護訓練、中学生は、消防団の指導によるホース延長や放水訓練、また炊出し訓練等、実践に即した訓練にそれぞれ参加している。また避難者による簡易トイレの組立、給水設備の組立て手順等も体験している。

下田町は、日頃からの消防団の指導により、「安心」「安全」な町づくりと、災害が起

きた時、いかにして災害を最小限にとどめることを前提に訓練を実施しており、尊い命・財産を守ることが出来るか否かは、日ごろの訓練が如実に示している。

下田町は、自治会、町民と消防団が三位一体になつて災害に対処しつつ、寺田寅彦先生の「天災は忘れた頃にやってくる」という格言を胸に、「災害に強い町下田、備えあれば憂いなし」を合言葉に取り組んでいる。

第一分団第八分団 合同視察研修会

第一分団 副分団長 伊藤 一弘



一月十八日、第一分団と第八分団第一班として初となる合同研修会が開かれました。この冬一番の寒さの中出発し海上保安庁羽田特殊救難基地に向かいました。担当者の自己紹介の後に沈没船内の捜索やヘリコプターからの救助など、特殊救難隊の業務紹介がありました。特に危険なヘリコプターからの救助は、海外の特殊部隊の方からもクライジーと言われるとのことでした。年間約二百件の出動をこなし、日頃の訓練も過酷で、映画海猿のモデルにもなったそうです。「訓練で出来ない事はいざという時出来ない」と、厳しい現場をのりこえてきた方の言葉に重みを感じました。業務紹介の後には機材見学に向かいました。機材や備品は命を預けることになる物

なので特注品が多いそうです。ヘリコプターからロープで船上に降りし一瞬で外せるフックなど、時間との勝負である場面でタイムロスが起きない工夫がされていました。

午後は大黒壇頭にある鶴見水上消防出張所に向かいました。当直隊長から映像を交え業務概要説明を受けました。主に横浜港の救助、防災業務を行っており、全四十五名のERT1集団です。説明の後、水難救助車を見学しました。同車は温水シャワー、照明、ゴムボートなどあらゆる機材が収納され、かなり大きいです。さらに乗船見学した「消防艇よこはま」は、甲板にある六門の放水砲はタントツの放水量とのことでした。

次に見学した「消防艇まもり」は、昭和の匂いを感じる歴史を感じる船でしたが、近く更新されるとのことでした。最後に消防艇の前で記念撮影をして同出張所を後にしました。その後の懇親会でもとてもいい時間を過ごす事が出来ました。今回協力いただいた皆様有り難うございました。

港北区消防出初式に 参加して

第二分団 第四班 副班長 赤間 和重

令和になつて初めての消防出初式が、一月十一日に日産スタジアム駐車場で開催されました。

新年らしい穏やかな天候のなか式典は始まり、はじめに長年にわたつて消防団活動に従事された方々やその御家族、各団体の表彰が行われました。

続いて分団ごとに消防団員と可搬式ポンプ積載車による分列行進が、規律正しく行われました。岸根離子連によるお離子と獅子舞、神港職組合により纏振込みやはしこ乗りが披露され、新年の式典を盛り上げてくれました。さらに、太尾小学校のマーチングバンドや尚花愛児園の鼓隊演奏が、日頃の練習の成果を存分に発揮して会場を和ませました。その後、消防署員と消防団員、家庭防災員も連携しての消防総合演技へと進みました。港北区内での大規模な災害発生を想定した、実践的なプログラムで、車内に閉じ込められた人を救出する場面では緊張感が走り、無事に救出されると会場から大きな拍手が贈られました。

倒壊建物からの火災発生では、家庭防災員の初期消火と消防隊・団が消火活動を行いました。最後は一斉放水で締めくくりました。会場では、家族連れをはじめとした大勢の



市民の方々に見守っていただきました。これからも将来の災害に備え、消防団活動を充実させていきたいと思います。

「融合・興奮・感動」 RWC2019 警備に従事して

第三分団 第二班 班長 田口 司

積載車での走行中に「Hey! Photo!」の音がかり、幾度か車を止め、にわかモデルになりながらの新横浜駅周辺巡回警備でした。陽気ながらも秩序のある諸外国の皆さんの様子を見て、警備に従事をして良かったと、過ぎた今でも思っております。

試合中は、場外の警備待機所まで響き渡る陽気なサポーターによる応援歌と、怒涛のような歓声で、待機している私たちも、何か一緒にスタンドにいるような興奮を覚えられました。

ラクビーには、「品位・情熱・結束 規律・



尊重」という五つの価値があるそうです。その価値は、日本代表選手の大活躍を通じて、多くの日本人の心に響いたのではないかと思います。警備への従事で得た感動を胸に、「港北消防団 ONE TEAM」の一人として、災害の無い港北区を目指し、今後も日々トライをして参ります。

横浜消防出初式 「一斉放水」に参加して

第四分団 第一班 黒川 晃一

令和二年一月十二日(日)、赤レンガ倉庫一帯で行われた横浜消防出初式の一斉放水に参加しました。四日前に予行があり、入団して三年目の私は筒先を持って放水するのは今回が初めての経験でした。ホースの水圧が凄



く、放水を水平に保つことがこんなに大変で力の要ることだとは思っていませんでした。そして全身筋肉痛と不安を抱えたまま、本番当日を迎える事となりました。当日は協賛会社のイベントや屋台もたくさんあり、数万人の人数が見守る中、お昼過ぎに一斉放水が始まり、私は緊張し過ぎて女性指揮者の合図と隣の人に合わせることで精一杯、三分半の演技を二回行いましたが夢中でした。何事にも自信のない自分にとって、目標に向かって心を一つにまとめる組織の力を経験できた素晴らしい出初式でした。今回の経験を活かし、生まれた育った綱島の安心安全と発展の為、貢献していきます。

港北消防団第四分団 研修会に参加して

第四分団 第四班 班長 吉田 哲也

十一月二十七日に研修会を行いました。綱島を出発し、宮ヶ瀬ダム、オキノパン本社工場、日産ヘリテージコレクションを見学しました。

宮ヶ瀬ダムでは国土交通省関東地方整備局の職員の方と一緒にダム見学を行います。このダムは重力式コンクリートダムであり多目的ダムです。役割は大きく分けて四つあります。一つは台風や大雨による洪水を防ぐことです。台風十九号の時、ダムは満水になりましたが洪水を防ぐことが出来たそうです。二つ目は川の環境を正常に保つことです。ダムに溜まる水は上部の水温が高く底部は水温が低いので時期に応じて水温を調節し放流を行っているそうです。三つ目は水道水を貯めておくことです。水道水の安定供給に役立っています。四つ目は電気を作ることです。愛

川第一、二発電所があり、合わせて25000kwの電力を遠隔操作で発電しています。ダム内部にはこれらを制御する施設が沢山あり、毎日の点検に必要なモノレールが設置されていました。

昼食後オキノパン本社工場に寄り、「丹沢あんぱん」「あげぱん」など各自土産のパンなどを買います。時間が無く製造工程は見学できませんでしたが、次回見学したいと思っております。日産ヘリテージコレクションは日産座間工場内にあり、歴代の乗用車及びレーシングカーなどが展示されています。自分が小学校五年のころ、この国の中で外周道路を車で走らせるアトラクションがあり、これも自動車免許を取り乗りに行っていた思い出があります。それがタットサンベビーだったことは知る由もありませんでした。とても有意義な一日でした。



出初式と入団半年を振り返って

第五分団 第四班 菅原 暉人

私が消防団に入団しようと思ったきっかけは、仕事で防災に携わっていることがきっかけでした。座学での研修や知識も必要ですが、机上の空論を避けるためには、やはり現場での経験や体験が必要不可欠であると感じ、消防団に入団しました。



入団して感じたことは、消防団は、地域の防災活動・地域の安心・安全に大きく寄与しているということです。地域の防災訓練への参加、各地区にある消火箱の維持メンテナンス、夜間警備など、地域に根差した活動を行っていることを知りました。そんな中、先日、消防出初式に消防団員として初めて参加させていただきました。港北区内三十五万人以上の暮らしの安全を守る消防団員が一堂に会し、日頃から訓練で行っている活動を披露し、地域の安全を守る！という意気込みを改めて示せたのではないかと思います。

新吉田西部町内会防災訓練

第六分団 第七班 班長 手塚 進一

ラグビーワールドカップの興奮冷めやらぬ十一月十日、新吉田西部町内会防災訓練が、初期消火箱が設置されている当町会住民敷地にて開催されました。住民六十八名、新羽消防隊四名、消防団十五名、総勢八十七名の参加でした。三つの訓練グループに分かれローテーションという形です。我々消防団は数名ずつ三グループにつき、資機材取扱いの説明及び実技指導を行いました。その際、消防隊の方々に支援を頂きました。放水訓練では、ホースの脱着、筒先の持ち方などを説明し設置されている四ミリホースで実際に放水して頂きました。圧力の感触など貴重な体験となった事と思います。消火器取扱い訓練では、何度か経験されている方も多かったようです。手際よく作業されていました。急遽、発電機訓練も行いました。

車いす・簡易担架取扱い訓練では当町会内の介護施設職員の方に指導して頂き、我々はその補助作業を行いました。参加者全員、我々の説明に真剣に耳を傾け訓練している姿に防災に対する関心の高さを感じました。また消防車、積載車に触れた子供達には笑顔も見られました。最後は町会備蓄の缶戸、薪を使用した炊出し訓練で、役員の方々が作ったカレーライスを頂き閉会となりました。楽しく訓練しました。萩生田西部町内会長の開会挨拶の通り訓練会になったと思います。参加頂いた住民の皆様及び消防団員に感謝致します。



文化財防火デーの消防訓練会に参加して

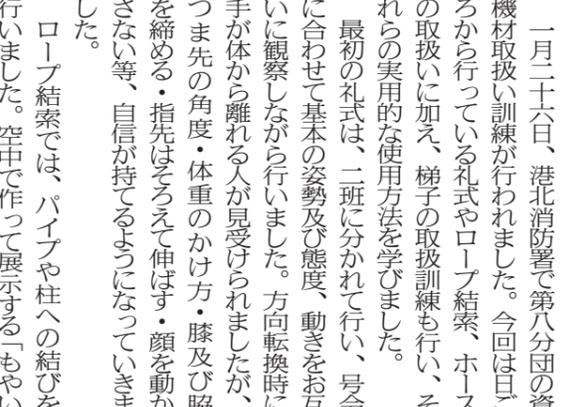
第七分団 第二班 班長 加賀谷 省二



一月二十七日に、新羽町の西方寺にて、西方寺関係者と港北消防署、港北消防団第七分団第二班、第四班、第八分団第七班と合同の文化財防火訓練を行いました。この西方寺には、国や県・市の指定文化財が多数あり、毎年の防火訓練はとも重要な訓練となります。訓練当日は、今にも雨が降り出しそうなき曇り空で、午前十時三十分集合し資機材等の設定や訓練内容等の確認をして、午前十一時に訓練開始となりました。訓練内容としては、まず西方寺客殿から火災が発生し、本堂に延焼拡大の恐れがある状況設定で行われ、西方寺からの一九番通報に始まり、西方寺副住職や関係者による初期消火訓練が実施され、次に第八分団第七班四名による模擬文化財の搬出と山門側に警戒区域の設定をして、最後に新羽消防隊と第七分団第二班と第四班と西方寺関係者による放水銃や一線二口等での一斉放水を行い訓練終了となりました。最後に訓練参加部隊は一同に整列をし、安江港北消防署長と中村第七分団長の訓練の講評がありました。文化財防火デー訓練を契機として、地域の皆様とともに防災意識を高めていく事がとても重要である、とのことでした。今回、この訓練に参加して、地元新羽町にある文化財等を守るためには、日頃からの防火防災活動が大変重要であると感じ、より一層身の引きしまる思いで防災意識を高めるとともに、地域の方に広めて行こうと思っていました。

資機材取扱い訓練に参加して

第八分団 第二班 西村 真紀恵



一月二十六日、港北消防署で第八分団の資機材取扱い訓練が行われました。今回は日ごろから行っている礼式やロープ結索、ホースの取扱いに加え、梯子の取扱い訓練も行い、それらの実用的な使用方法を学びました。最初の礼式は、二班に分かれて行い、号令に合わせて基本の姿勢及び態度、動きを互いに観察しながら行いました。方向転換時に手が体から離れる人が見受けられましたが、つま先の角度・体重のかけ方・膝及び脇を締める・指先はそろえて伸ばす・顔を動かさない等、自信が持てるようになっていきました。ロープ結索では、パイプや柱への結びを行います。空中で作って展不开的「もやい結び」も、結びつくととなると勝手が違ってくるにはできませんでした。また、筒先への結索では、結び目が解けないように、さらなる安全確保のため「半結び」をすることを教わりました。梯子の訓練は初めて行ったので、消防団係長手書きのイラストを見ながら、各部の名称を覚えることから始まり、二人組で梯子を運搬し登りました。梯子に限らず、見通しが利かない場所や騒がしい場所では特に、復唱が重要であることを学びました。梯子によるつり上げ救助訓練は、重くて持ち上げが、力持ちの男性に頼んだ方がよいと思えました。ホースの取扱いでは、結合時に雄金具の根元を踏み起こし、雌側を差込み結合確認し、放水までの流れを行いました。自分の番が来るまでは、筒先の背負い方やホースの運び方を学びました。最後に、選抜メンバーによる一連の流れとして実演が行われ、復習することができ、実践で役立つことを学びました。

内山副団長 藍綬褒章受章

令和元年秋、内山秀信氏が藍綬褒章を受章されました。内山氏は昭和五十五年四月に港北消防団員として任命され、班長、分団長、本部部长を歴任した後、現在は副団長として率先垂範し業務に精励されています。長年にわたる港北消防団の発展と地域防災活動への貢献が認められ、今回の栄えある受章となりました。



港北消防団着任幹部

- 港北消防団 団長 飯田 孝彦
- 副団長 石川 治彦
- 副団長 鈴木 幸祥
- 副団長 田中 基博
- 副団長 草野 恵
- 副団長 嶋村 公
- 副団長 羽田 信
- 副団長 齋藤 剛
- 副団長 中井 弘
- 副団長 伊藤 徳一
- 副団長 廣井 榮
- 副団長 吉田 亮
- 副団長 黒川 通
- 副団長 田中 夫
- 副団長 山本 忠
- 副団長 中山 康
- 副団長 加藤 子

港北消防団退任・退団幹部

- 副団長 加藤 修
- 副団長 宮田 繁
- 副団長 山口 久
- 副団長 山瀬 孝
- 副団長 長瀬 進
- 副団長 西川 雄
- 副団長 森下 二
- 副団長 川野 茂

港北区内の火災情報

火災発生状況		令和2年	令和1年	増△減
年別	件数	17	21	△4
火災発生状況	建物	8	6	△2
	車	0	0	0
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	9	15	△6
	床面	61	0	△61
	死者	0	1	△1
	焼死	0	0	0
	放火	0	1	△1
	自殺	1	0	△1
主な原因	年別	令和2年	令和1年	増△減
主な原因	放火	8	13	△5
	機器	2	0	△2
	線路	2	2	0
	たばこ	1	2	△1
その他	1	0	△1	

編集後記

「港北の消防」の編集に携わり四年が経ち、この第六十二号でお役目を終らせていただきます。今まで原稿を寄せ頂いた各方面の方々へ改めて御礼申し上げます。近年は地球温暖化の影響で台風が大型化し、豪雨災害等何十年に一度という自然災害が猛威を振るい、各地で甚大な被害が出ています。消防団活動も日頃から地域との連携を深め、消防団と地域が一体となって取組み、地域防災に役立てるようになっていかなければなりません。これからは明るい内容の原稿が多くなることを願い、次期の編集委員の方にバトンを渡します。(山本)

第二十一期編集委員

- 本 部 加藤 修 (編集顧問)
- 本 部 長瀬 進 (編集委員)
- 第一分団 村田 庸明
- 第二分団 峯岸 義孝
- 第三分団 吉田 亮一
- 第四分団 黒川 恵
- 第五分団 田中 忠夫
- 第六分団 山本 忠
- 第七分団 中山 康
- 第八分団 畑野 悦子